

科目名		サブタイトル	担当教員	配置学年	単位数
文化コンテンツ活用論		コンテンツとしての鉄道とその活用方法を理解する	松山 周一	2年次後期	2
科目区分	専門	キーワード	「聖地巡礼」、地域活性化、鉄道のコンテンツ化、鉄道のブランド化		
ディプロマポリシーとの対応		2. 交通産業および関連分野での基礎能力(技術・理論)を有し、関連分野で活躍可能な能力			
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的(交通・観光関係)な知識と実践力とを総合的に身につける 2. 交通産業および関連分野で活躍するための基礎能力(技術・理論)を身につける			
講義の目的	コンテンツが地域と結びつき活用される過程について、身近な事例の一つであるマンガ・アニメの「聖地巡礼」とおして理解するとともに、鉄道が人や物資の輸送という本来の目的を超えてコンテンツとして改めて地域と結びつき、地域の新たな資源として活用される様相についていくつかの事例を中心に理解することを目的とする。				
到達目標	コンテンツが地域と結びつき活用される過程とその様相を理解する 鉄道がコンテンツとして改めて地域と結びつき、活用される過程を理解する				
講義内容	まずはじめに、コンテンツによる地域振興の主たる事例であるマンガ・アニメの「聖地巡礼」の登場と発展を事例として、コンテンツがどのようにして地域と結びつき、地域資源として活用されてきたかについて説明する。後半では鉄道が様々な関連事業とともにブランド化していく様子と、鉄道がコンテンツとしてどのような形態で地域に結びつき、活用されていくのかということについていくつかの事例をもとに説明する。				
講義スケジュール		タイトル	内容		
	第1講	制作者・消費者・地域 (1)	コンテンツの活用における主体の三者について理解する。		
	第2講	制作者・消費者・地域 (2)	コンテンツの活用における主体の三者の動向を理解する。		
	第3講	コンテンツの活用 (1)	視聴者(ファン)主導によるコンテンツの活用を理解する。		
	第4講	コンテンツの活用 (2)	制作者・地域の協同によるコンテンツの活用を理解する。		
	第5講	コンテンツの活用 (3)	制作者主導によるコンテンツの活用を理解する。		
	第6講	活用における諸課題	地域の資源としての活用で生じた諸問題について理解する。		
	第7講	鉄道のコンテンツ化 (1)	住宅地開発を中心に鉄道のブランド化について理解する。		
	第8講	鉄道のコンテンツ化 (2)	鉄道会社の関連サービス業について理解する。		
	第9講	鉄道のコンテンツ化 (3)	エキナカなど駅設備における新たな価値について理解する。		
	第10講	鉄道のコンテンツ化 (4)	移動手段+αとしての鉄道について理解する (1)		
	第11講	鉄道のコンテンツ化 (5)	移動手段+αとしての鉄道について理解する (2)		
	第12講	鉄道のコンテンツ化 (6)	廃線跡など、遺産としての鉄道の活用について理解する。		
	第13講	鉄道の活用例 (1)	鉄道そのものをコンテンツ化している事例を理解する。		
	第14講	鉄道の活用例 (2)	鉄道をまちづくりの基幹として用いている事例を理解する。		
第15講	鉄道の新たな価値	鉄道が今後、どのような価値をもつかについて検討する。			
指導方法	スライドを中心に、様々な手段を用いた講義形式で行う。				
事前学習	授業で取り扱う予定のコンテンツについて、その概要をインターネットなどをもとにして調査を行う、あるいは実際に作品の視聴などを通して理解しておくこと。				
事後学習	授業で取り扱った事例について、インターネットなどをもとに類似の事例について調査するとともに、その諸問題について検討すること。				
成績評価方法	平常点 30% 本試験(レポート) 70%				
テキスト	テキストの指定は行わない。必要であれば適宜、資料を配布する。				
参考書籍	授業内で適宜紹介する。				
特記事項	可能であれば地図帳または地図アプリを講義中傍らに置いて受講してほしい。				